ポイント
都市史のキーワードをもとに
アーバンデザインを見る

Ⅱ　都市の発達とアーバンデザイン

０．都市を発達させるきっかけとなる「都市への期待」

人々が都市に寄せる期待はきわめて多様であり、いくつもの異なった、しかもしばしば対立しあう期待が都市に寄せられる。異なる期待をどのように集約し、どのように優先順位をつけるか、ここから対立や紛争が発生する。（発展・発達の方向が一様でない）

第１に都市は一人ひとりの人間が好ましい自己のあり方を実現し、自らの夢を少しでもかなえられるようなチャンスと基盤を備えた**生活拠点**でなければならない。**生活の質（quality of life）**は個人が都市に求める最大の条件である。第２に都市は生産・流通・消費といった経済活動を進めるための**空間的拠点**である。**経済的蓄積**の実現は、利潤追求をめざす人々や企業を都市の建設に向かわせる最大の動機である。

日本では 1950 年代後半から 1960 年代の高度経済成長期に経済的蓄積を優先し、道路や港湾などの生産活動の基盤整備を進め、工業育成のための地域開発が展開された。その結果、**社会的歪み**が噴出する。**公害、人口の過密過疎、通勤地獄、地域社会（コミュニティ）の崩壊など**…。このため 1970 年代に入って生活の質からの巻き返しが起こった。**住民運動**が活発となり、**福祉・教育・環境**といったテーマが重要性を増す。この一例を見るように、どのような社会・都市でも生活の質と経済的蓄積の間を行きつ戻りつしながら、課題を克服して発展をとげてきた。

１．都市と文明の成立

1)　人口の推移

世界と日本の人口の推移

年	世　界	日　本	
2050	約 100 億人	約 10,000 万人	
2000	約 63 億人	約 12,800 万人	
1900	16.3 億人	4,439 万人	
1800	9.5 億人	2,990 万人	
1600	5.8 億人	1,227 万人	（関が原合戦）
1000	2.5 億人	650 万人	
400	2.1 億人		（平安時代）
200		59.5 万人	（弥生時代）
1	2.5 億人		
BC1300	1.0 億人	16.0 万人	（縄文後期）
BC3000	5000 万人	11.0 万人	（縄文前期）

地球誕生：46 億年前
人類の祖先登場
　　：約 400 万年前
全人類共通の「母」
＝イヴ：約 20 万年

2)　都市文明の成立

①文明発展の転機

狩猟採集生活　→　食糧生産（農耕牧畜）生活へ　　（新石器革命）

移動生活　　→　定住生活　へ　　（都市革命）

※紀元前 9000 年頃　チグリス・ユーフラテス両川下流域「肥沃な三日月地帯」で定住が始まる

※紀元前 5000 年頃　農耕牧畜の生産技術向上（雨水農耕→初歩的な灌漑技術の導入）

→畑に水を引くための水路や堤防を築く大規模な灌漑工事

＝多数の集落を協働させるセンター機能

⇒都市の成立：労働力の組織化、技術体系の確立、工具・装置の開発・発達などの「場」

※紀元前 3500 年頃　大規模灌漑、農耕村落の規模拡大

②定住生活により人間社会のシステム／イデオロギーの原型が成立

→支配階級の成立／宗教目的の建物の建設

都市神（神＝王）を祭る神殿を核（中心位置）に都市を形成　＋　聖塔（ジグラット）　＋　都市壁（円形）

通風・採光に配慮した中庭形式の住宅

③常に覇権や領土問題で争うようになる　→　領土の支配・統合　→　統一国家の確立

3)　支配階級のアーバンデザイン

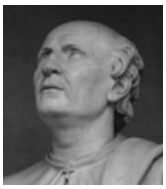
①ペリクレス（古代ギリシャ＜紀元前５世紀＞・アテネ）

②カエサル＜シーザー＞（古代ローマ帝国＜紀元前１世紀＞・ローマ）

③ブルネレスキ（ルネッサンス期イタリア＜14～15 世紀＞・フィレンツェ）

ペリクレス

カエサル


ブルネレスキ

２．歴史的都市

古代メソポタミアの都市（チグリス・ユーフラテス両川の流域）　紀元前 3000 年頃

支配層と都市民の区別が明確に　→　ex. ハムラビ王

古代ギリシャ都市　紀元前 10 世紀～紀元前６世紀　→　ex. アテネ

＝数万人の人口規模　→　巨大化すると別に都市を建設（地形条件による）

ローマ帝国　紀元前３世紀～紀元後５世紀（西ローマ帝国滅亡まで）

３．ローマの都市空間

1)　都市の構造

市域（城壁内）は徒歩で移動可能（日中は馬車・荷車の通行が禁じられている

＝「ユリウス交通渋滞対策法」）

100 万人都市（うち奴隷階級 20～30 万人）でありながら歩いて回ることが基本

→　中世の西洋都市に共通する　＝　都市の基本

2)　紀元後３～４世紀ごろのローマの構成

①住宅

貴族の住宅（ドムス）1,790 戸　…中庭式の連棟大邸宅

庶民（平民）の住宅（インスラ）…４～５階建ての高層集合住宅、貴族階級が所有する賃貸住宅

46,602 戸　　数世帯～200 世帯以上のさまざまな規模がある

中庭側に廊下を配置、３ＬＤＫ程度の大きさ

②公共施設（440 年間継続）

街道　29 本　　…アッピア街道など、舗装された道路

↳水勾配、排水用の側溝、歩道、道程標

1)　公道（viae publicae）＝幹線道路　国家が敷設工事を行い、メンテナンスも国が担当。敷石舗装（車道４ｍ、歩道は左右に３ｍ）。マイル塚、１日の旅行程ごとに宿場を設置（８万 km）

2)　軍道（viae militares）　軍事上の必要から建設。敷設・メンテナンスともその地に駐屯する軍団が行う。多くは敷石舗装（対向２車線の車道）

3)　支線（viae acutus）　地方自治体が必要に応じて敷設、メンテナンスも行う。

［ 2)・3) で７万 km ］

4)　私道（viae privatae）　土地所有者が敷設、メンテナンスの責任を持つ。誰でも通行可能。（15 万 km）

橋　　８か所（市内のみで）

水道　９本　　…地下坑道と石積みアーチの連続

ex　アッピア水道＝全長 16.617km（地下坑道 16.528km/地上陸橋・高架橋 0.89km）＝水質保障、流し放し、１日の総水量 73,000m^3

噴水神殿（ニンファエム）　15 か所　…地中に導水管を整備

公共水汲み場　1,352 か所　／　風呂　856 か所　／　公衆便所　144 か所

大浴場　11 か所　　…カラカラ浴場（450ｍ×450ｍの浴室、1,600 人を収容）など

フォルム（フォロ）　11 か所　　…広場

バシリカ　10 か所　　…多目的集会施設（裁判、商取引、儀式など）

図書館　28 か所　　煉瓦・木の型枠、石灰・砂・水に石屑・煉瓦を混入し固める

兵営　　８か所　　↑

アーチ　36 か所　　組積とコンクリートの建築

門　　37 か所　　…凱旋門　　↓

穀物倉庫　290 か所　　アーチ、ドーム、ヴォールト

劇場　３か所

③娯楽施設

闘技場（コロセウム）　　２か所　…（約５万人を収容）など

競走場（キルクス）　　２か所

模擬海戦場（ナウマキア）　５か所

関連資料⇒塩野七生（2001.12）：ローマ人の物語Ｘ（すべての道はローマに通ず）

４．中世ヨーロッパ都市（紀元後５～15 世紀）〈５～10 世紀：形成期／11～15 世紀：発展・崩壊期〉

1)　都市の再構成

５～10 世紀（中世形成期）にローマ文明の影響が及んだ（ローマ型のアーバンデザイン）

＝　市壁の内側に直線のメインストリートを２本直行させ、市街地を分割、

他の街路をそれぞれ平行に通して長方形グリッドをつくり中央交差点近くに広場（フォーラム）を設ける

〈平和的〉

①南欧の都市ではキリスト教会を中心に再編が進む（キリスト教の教義により生活をおくる集団）

②農業・牧畜の内陸型社会＋商業（地中海貿易）

→人口増加にともなって土地の開墾・農業の集約化→生産力の増大→余剰農産物の取引

→週市・年市の開かれる市場集落が成立（貴族の城砦や修道院に隣接して保護を受けながら発達）

③非農業的集落（商業地）が主要な河川沿いで発達（水運利用）

〈戦略的〉

④戦争後の都市の再建、植民地などに新都市を創設　＝　グリッド（格子状街路）パターン

2)　都市形態の変化

▶①ますます増大する余剰農業生産物の集積、領主層という消費者の発生

▶②市場発達に積極策、相対的平和の確立　→　地域経済の発展

11 世紀　十字軍運動、地中海交易、国土回復運動

12 世紀　北海・バルト海交易（海路、河川、陸路による）

12～13 世紀　交易とネットワークで都市につながりを持たせる

ノルマン人・マジャール人の襲来により都市・生産物・取引物に被害

③定住地防備の増強・強化　→　囲壁（市壁）の形成

→　限られた量の石やレンガで最大限の物財を囲い込む　＝　円形（コンパクトな形態）

3)　都市の崩壊？

①中世の人々にとっての「理念としての理想的都市」は聖書によってイメージが形成されていく

〈ヨハネの黙示録 21 章 10～23 節〉

＝　キリスト教の聖地エルサレム（聖なる都市）

＝　正方形（立方体）の都市（一辺 2,220km）、高い城壁（65m）と東西南北にそれぞれ３つの門（計 12 門＝12 部族を意味する）

＝　城壁は碧玉（へきぎょく）、市門は真珠で飾られ、大通りは透き通ったガラスのような純金で舗装

②実際の空間構成では私有空間と公共空間のせめぎ合い

私有空間（住宅、店舗、庭園、菜園）　→　公共空間の私的利用

公共空間（教会、市場、広場、街路、ギルドホール、公共浴場など）

③アーバンデザインを実現・実行する政治権力の欠如＝不規則な都市　→　大衆化

５．イタリア・ルネッサンス期のローマ文化への回帰案（15～16 世紀初頭）

なぜ・どのように都市を考え出したのか

この頃の理想都市のアイディアは現実の切実な問題に対する具体的な解決策として提案された

例えば　レオナルド・ダ・ヴィンチ（1452～1519 年）のアーバンデザイン・メモ

彼は鏡文字によるメモとスケッチにより、機械、飛行機、地質、動物、植物、天文学、水力学など多様な手稿を残した。建築と都市に関する手稿も多い。

①Ｂ手稿（1487 年ころ）

※ミラノでペストが流行（1484～85 年）し、人口の１／３（５万人）が死亡

→**不衛生**に起因するさまざまな問題を清潔に合理的に整理

→通りを２つのレベルに分ける

3.6mのレベル差
- 下レベル（地上）…サービス運搬用、倉庫・台所へ荷車が直接アクセス　貧しい人の通路
- 上レベル（都市生活者）…紳士淑女が歩く、２階の客間にアクセス

②Ｂ手稿

→都市中心部の過密状態の解消（分散化）、郊外に 10 か所の衛星都市を建設

→ミラノから少し離れた土地（スフォルツァ公領内）にまったく新規に町を新設

→ミラノの人々を移住

→水路を利用（既存の川の流れを分割、並行に流して全体が碁盤目状の町をつくる。川は下流で合流する）

③アトランティコ手稿(1509～10 年ころ)

ローマ南西の港町（チヴィタヴェッキア）の計画

→円弧状の翼を出した港湾計画、両脇に砦、半円形の船着場、後ろには碁盤目状の町が広がる

④アトランティコ手稿

ミラノの町の全体図と鳥瞰図

→ミラノの町を２つの輪状水路で分割、市門を配置

⑤ウインザー王室図書館手稿

フィレンツェ近くのアルノ川流域を想定

→多角形の左右対称の町、町の中央に川が流れ、都市内部は碁盤目状に仕切られ、都市城壁の角に見張り塔

⑥ウインザー王室図書館手稿

→イモラの都市の要塞化計画

６．行為としてのアーバンデザインの必然性（史的事実から）

①富（食料）の集積、集権、市民の安全の確保　⇒　防御都市

②貿易拠点、「市」　⇒　交易都市

③宗教・思想　⇒　教理にのっとった理想社会

④都市問題への対応策　⇒　原因の解明と対策